

先行技術文献

78 B 0

特許庁

特許出願公告

特許公報

昭31-5805

公告 昭31.7.17 出願 昭29.9.14 特願 昭29-19775

出願人 発明者 佐藤健三 京都市伏見区東浜南町680
代理人 弁理士 中尾房太郎

(全2頁)

鉄道軌条の自動給油装置

図面の略解

図面は本発明実施の一例を示す一部縦断側面図である。

発明の詳細なる説明

本発明は軌条の下側に定着するブラケットに弾性アームを介してグリーススポットを連結し其のグリーススポットより延出した給油口の先端に給油舌を装着し、其の給油舌を車輪鍔の摺擦する軌条側面に臨接させ且つグリーススポット内に油面に接する油圧板を装着して軌条の震動をグリーススポットに伝へてグリーススポットの震動により油圧板を慣性下降させ給油口にグリースを押出し給油舌により給油させる事を特徴とする鉄道軌条の自動給油装置に係り其の目的とする処は軌条側面の車輪鍔が圧接する部分にグリースを注入する作用を車輪通過による軌条の震動によつて簡単に行はせ、軌条側面と車輪鍔との間に極めて円滑な給油を自動的に行ふ簡単なる給油装置を得むとするものであつて、其の実施の一例を図面に付き説明すればブラケット1の先端をグリーススポット2より延出したアーム3と板バネ4を介して連結し、ブラケット1の基部に水平締金5及び押捺子6を設けて、軌条Lの基板Bに水平締金5をナット7により基板Bに沿ふて引き締めると共に押捺子6を回はして基板BのコーナーCに押し付け両者によりブラケット1を基板Bに定着し、一方グリーススポット2より延出した給油口8の先端9を軌条Lの下側Aに接着し（此の接着は板バネ4の弾性とグリーススポット2のアーム3に螺栓した調整捺子10の締め付けによつて行ふ）給油口8の先端9の他側に捺子11によつて装着した給油舌12を軌条Lの内側Sに軌条Lの上に載る車輪Wの鍔Fの下側に臨む様に接着し、グリーススポット2内に容入したグリ

ースGの上面に油圧板13をグリーススポット2の内周に密嵌してスプリング14により圧着しグリースGを給油口8を経て給油舌12の内側と軌条Lの内側Sとの間に圧送させる様にしたものである。

本発明は以上の様に構成したものであるからグリーススポット内のグリースは常に軌条の内側と給油舌との間に圧送されて居り、軌条を転動する車輪が車輪の走行運動を軌条に加へて軌条を震動させると軌条の基板に固定されたブラケットは弾性アームを介して軌条の震動を拡大してグリーススポットを上下震動させ、ボット内で発条によつて下圧されて居る油圧板を慣性下降させてグリース上面を圧下しグリースを給油口を経て給油舌より押し出し、軌条の側面と其処を摺擦する車輪鍔の側面との間に注入し車輪鍔にグリースを附着させ同鍔が軌条側面と軌条の屈曲部で摩擦発熱して車輪鍔及び軌条が磨損する事を防ぐものである。

本発明は極めて簡単なる機構により注油作用を車輪の走行により軌条が受ける震動を利用して行はせるのであるから、車輪の運動量に比例して夫れに応じて必要な注油量が自動的に調節される時長を有し最も適切な給油を円滑に行ひ得る誠に有益な発明である。

特許請求の範囲

軌条の下側に定着するブラケットに弾性アームを介してグリーススポットを連結し其のグリーススポットより延出した給油口の先端に給油舌を装着し其の給油舌を車輪鍔の摺擦する軌条側面に臨接させ且つグリーススポット内に油面に接する油圧板を装着して軌条の震動をグリーススポットに伝へてグリーススポットの震動により油圧板を慣性下降させ給油口にグリースを押出し給油舌により給油させる事を特徴とする鉄道軌条の自動給油装置。

(2)

特許出願公告
昭31-5805

